

根来山げんきの森倶楽部

令和4年3月作業日誌

今回はヤマザクラが咲き始める中、天候にも恵まれ、オオムラサキプロジェクトの子どもたちや多くの倶楽部員が参加してくださり、とってものにぎやかな活動日になりました。

活動日：3月20日 9:30~15:30 天気：晴れ 倶楽部員：54人 オオムラサキプロジェクト：32人

新しい舞台の仕上げ作業へ

舞台づくり…本日の作業は天板張り作業も終わり、舞台をより長持ちし綺麗に仕上げる作業を8名で行いました。一つは天板を止めたネジの打ち込みの深さを揃えてコーキング剤を入れた後、程よい太さに揃えた木を打ち込み、それ用のノコギリで切り揃える作業。もう一つは木の節穴を程よく削り穴を開け、それをコーキング後にサイズを合わせた木材を打ち込み、表面



を綺麗に揃える作業です。一つ目の作業はサイズが同じなので、慣れると順序良く役割を分担して行いましたが、節の処理は大きさや割れの方角も一つとして同じ物はなく、それぞれの節に合わせた作業になり、またフシは固く掘り起こすのもそれは大変な作業のようでした。

本日の作業はネジ穴は全て完了&節穴はまだ多数残り…にて残念ながら終わりましたが、あとはコツコツやることになります。昼休みには来園者も弁当を広げていましたが、複数の方が『立派なものできましたね』と声をかけてくださいました。作業的にはまだ舞台の後ろ側に支柱を立て、後半分の囲みが出来るとな物を立てるようです。今暫く完成にはなりません本当に完成が楽しみです。(3月28日にお陰様で完成しました。作業の皆さま、本当にお疲れ様でした。)(椿 雅孝)



ウルシの成長に期待を

漆谷整備…漆谷広場のシンボルツリー“こぶし”の開花は3分咲きです。本日は午後から8名で伐倒された大木(φ40前後)の後処理でした。2名がチェンソーで大木を移動しやすい1m以下のサイズに玉切り。残りの人員で所定の場所まで運び出す作業でした。運び出すにも色々工夫しなければ微動もしません。トビを上手に使いコロコロと転がし処理する人。まるで

笹職人みたいです。ロープを巻き付け、掛け声合わせて引っ張り出すグループ。集められた切断木の量は半端ないものでした。その都度状況に合わせて知恵を出し、目的を達成できました。作業終了後の風景はすっきりとし、日当たりも良くなり今後の漆成長に期待です。

追記：この度の漆育成環境改善として漆の頭を覆っている大木の整備と後処理も大方終了。その間、小型エンジン駆動式ロープウインチ使用等色々で見学できた期間でした。(藤園 満郎)

安全で歩きやすい道に

遊歩道の整備…ここしばらく歩道の整備をしていませんでした。今回は、メンバー6名で第2駐車場のE.F点からタヌキのしっぽと西展望方向の2か所を補修しました。使用する横木、杭、かけや、ロープ等をテラーに積み込みバックでゆっくりと現場に運び入れ1本、1本丁寧に設置します。路肩が不安定で杭の固定に少し苦労しました。材料の運搬は何回かに分けて行い、1~2回分の設置は容易に行うことが出来ました。午前中の最後は大物の丸太（長さ4m 直径約25cm）を傾斜地の所に慎重に取り付け、長い杭をハードなかけや打ちで固定しました。横木の設置が終わり、トンガ、鍬、鋤簾等使って雨で流された路面、盛り上がった路肩、山側のたまった土砂等をみんなで一緒にならしました。この日は好天とサクラの開花が重なり、歩道を散歩するお客さんが多く、狭い歩道上は混雑しましたが、出来上がった歩道は少し道幅も広く歩きやすくなりました。

午後の部はF点より少し進んだ場所で、以前に大雨で少し土砂崩れをした所です。道も狭く路肩も弱いので、太い部材と長い杭をしっかり打ち込んで山側の盛り上がった土砂も平になりました。まだまだ悪い場所もたくさんありますが、とりあえず設置材料の確保をしながら少しずつ補修をしたいですね。皆さんお疲れ様でした。（土生川 幹夫）



オオムラサキの森づくり

オオムラサキプロジェクト…4回目となったオオムラサキプロジェクト。直前2回の作業で地拵えしたネムノキ谷にクヌギ100本とイロハモミジ10本を植えました。メンバーはオオムラサキプロジェクト参加者とわかやまNPOセンター、和歌山県環境ネット、そして私たちげんきの森倶楽部のメンバー合わせて40名です。げんきの森倶楽部のメンバーがリーダー

になり、4班に分かれて子どもたちに苗木の植え方を指導しながら植えていきます。植え方はいつものように3本をまとめる巣植えです。雨上がりで土も柔らかく掘りやすいうえに、ネムノキ谷は窪地になっているのでいい土が溜まっています。子どもたちには植えやすい環境でした。各班、リーダーと相談しながらそれぞれ植える場所を決めて土を掘っていきます。子どもたちに大きな鍬は扱いづらいので小さな手ぐわを持つての作業になりました。このクヌギの苗木が大きくなって樹液を出すのはまだ10年ほどかかりますが、その頃にはたくさんのオオムラサキが訪れてくれることでしょう。

午後は、みんなでバームクーヘンづくり。竹に生地を塗り付けて、回しながら炭火にかざして焼いていきます。生地は今回のためのスペシャルブレンド。炭はげんきの森特製黒炭で、十分な火力を発揮してくれます。おかげで美味しそうなバームクーヘンがたくさん焼きあがりました。

次回は今年7月にオオムラサキの観察会を実施して終了となります。（岡田 和久）



初参加者も交え炭出し & 薪割り



炭出しと薪割り…前回活動日(2/20)に炭材の窯入れを行い、その後6日間かけて焼いた炭を窯から出して製品に仕上げます。本日は15名(男性12名・女性3名)の参加で初参加の方4名を含め、窯出し作業・炭カット作業・計量作業と、3班で分担して進められました。窯出し作業は狭い炭窯の中から出来上がった炭を一本一本丁寧にコンテナに移し、窯外に出します。コンテナで運ばれた炭はカット班の皆さんに引き渡され、鋸で約10cmの長さにカットして袋に詰めて行きます。袋

詰めされた炭を10kgに計量調整を行い、紐をかけて完成。今回は21袋210kgの炭が出来上がりました。炭の出来具合として良かったことは、今まで折れが多かった枝炭が長い状態で出来上がっていた事です。いろいろ試した結果で、今後の一步前進になればと思います。今回は初参加の方も増え、作業も順調にはかどり全て製品完成まで午前中で終了しました。

午後からは10名(男性9名・女性1名)薪作り主体で作業を行いました。既に約40cm位に切断された丸太を薪割り機で幾つかに割って行きます。薪割り機の操作・丸太を乗せる・薪小屋に保管等の作業を分担して進めました。今回初参加の女性で薪割り機のレバー操作などもマスターされ、いろいろ体験出来たこともよかったかと思えます。ほぼ丸太も大半片付き、本日の作業は終了となりました。

みなさんお疲れさまでした。(坂本 幸三)



“ご愛敬、の豚汁作り

豚汁作り…朝からよいお天気ですが、風が冷たくチョット寒いです。でも、ことのほかたくさんの方が集まってくださっていました。植樹する班、炭を袋に詰める班、豚汁を作る班などに分かれて作業開始です。

私たちは女性4人で豚汁を作ります。大きな寸胴鍋に50人分くらいの豚汁を作るのですが、いつもメンバーが違うためなかなかスムーズには行かず、材料も揃っていないので途中で買い物に行ってもらったり、その場に揃っている材料を切ったりするのですが、面白いもので、それぞれの家庭の切り方があるようで、みんなの切り方が違います。それはそれぞれご愛嬌、煮えてしまえば一緒です。

味噌を入れて、味見をするのですが、何回も味見をしていると味が分からなくなってきて、みんなで首をひねりながらも何とかできあがりました。お昼にみなさんに食べていただくのですが、早く食べに来られた方には具たくさん盛れたのですが、遅くなったみなさんには具が少なくなってしまって申し訳なく感じました。次回は早めに食べに来てくださいネ!

スムーズに行くように、もう少し手順に工夫を加えてもいいかなと課題が見えました。次回、私が担当するのはいつになるかわかりませんが、乞うご期待♪です。(小川 早苗)



たくさんのミツバチ来るように



ミツバチゴウラの整備・・・今回は、間もなく分蜂が始まるため、設置したゴウラの点検と掃除をしました。分蜂とは、春になり新しい女王蜂が生まれるとその母親女王蜂が働き蜂の約半分を連れて巣を飛び出し新しい巣を作るのです。昨年設置した7個のうち、2個にミツバチが残っていました。他はミツバチが入ってこなかったか、入ってもオオスズメバチに襲われたり、スムシにやられたりとまだ巣や蜂蜜がそのまま残っているのもあり、とても残念でした。今年がたくさん入ってねと願

いを込めてゴウラを掃除して蜜蝋をたっぷり塗っておきました。昨年4か所に置いていましたが3か所にし、西展望台のゴウラは回収して蜂が入っている近くに設置しました。次回はオオスズメバチに襲われないようにトラップを設置したいと思います。(栗山 美和)

げんきの森に待ちに待った桜の季節がやってきました。多様性の高いヤマザクラが咲き始めたのは3月中頃。昨年よりは2週間も遅くなりました。同じころ、カンヒザクラも控えめでうつむき加減の緋色の花を咲かせました。続いて濃いピンクの陽光、小ぶりの花を付けるエドヒガン、真っ白なオオシマザクラと咲き継いでいきます。そして、げんきの森名物のネゴロザクラが咲く頃には里山の春も絶頂に。

色々なことが起こっている世の中ですが、しばらくはこの花の森に心を埋めていたいと、そんな気持ちになってしまいそうです。(岡田 和久)

